

本市では、まちづくりの最重要事項を「心豊かに暮らせるまちづくり」として掲げ、全国に先駆けた「舞鶴版地方創生」の実現により、時代に合った暮らしやすいまちづくりを推し進めています。シリーズ市政の「今」第17回は、子育て環境と質の高い教育が充実したまちを目指す取り組みについてお知らせします。

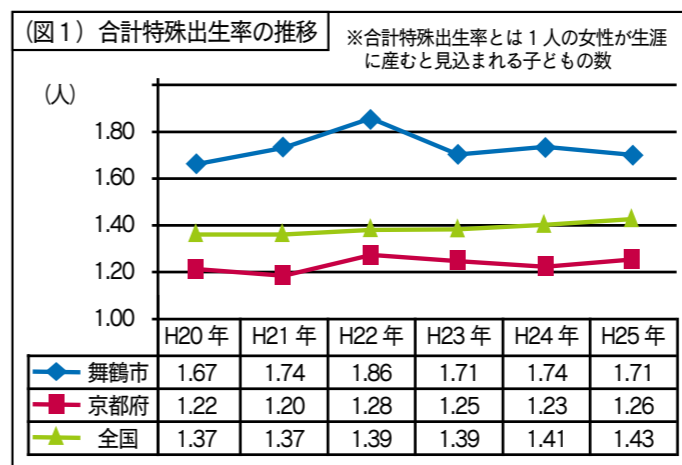
子育て環境の充実

子どもは家族や地域にとってかけがえないタカラモノで、子育て環境の充実が、子どもや家族の幸せだけでなく、舞鶴の未来をつくることにもつながります。

本市は、全国や府内と比べ、1・7人台という高い合計特殊出生率(図1参照)を保っています。また、多くの入所待ちがある大都市圏と違い、保育所と幼稚園の待機児童がゼロといった子どもを安心して産み・育てることができるといった環境が整っています。

今後もさらなる子育て環境の充実を図り、「子どもの笑顔と子育ての喜びがふれるまちづくり」の実現に向け、家庭や

地域、関係機関と一体となって取り組んでいきます。



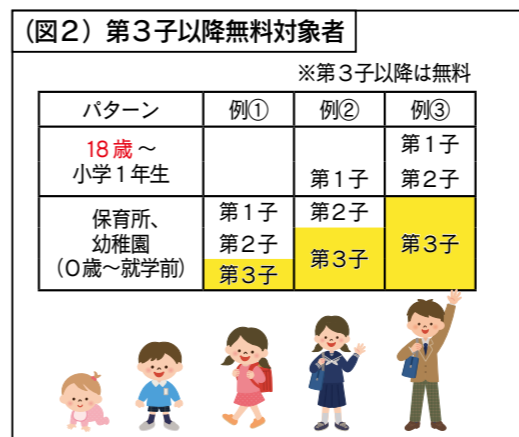
子育て交流施設と青葉山ろく公園の整備
平成27年4月25日(土)、前島地区においてグランドオープンを予定している子育て交流施設は、「豊かな遊びを通じた学び、育ち、交流」をコンセプトに、天候に左右されず、子どもと多様な世代の大人がともに豊かな遊びを体験することができ、子育てに関する相談や子育て支援情報も提供(写真下、6ページに関連記事)。

また、青葉山ろく公園には、25基の遊具を整備した新たなフィールドアスレチックコースが今春完成します。

市では、年代に応じた施設整備で、子ども達の健やかな成長をサポートしていきます。

第3子以降の保育料を無料に

今年度より、子育て家庭の保育・教育にかかる負担を少なくするため、第3子以降の保育所・幼稚園保育料の無償化を18歳未満の子どもが3人以上いる世帯まで拡充します(年収要件あり)。現行制度も含めた第3子以降の無料対象者は図2のとおり。この施策は、京都府内全市町村で実施されるもので、全国初の取り組みとなっております。



子どもの医療費を助成

子どもの健康の保持・増進と子育て世帯の経済的負担軽減を目的に行ってきた医療費助成を、平成27年9月診療分から中学生の通院まで拡充します。

中学生の入院費用の自己負担額が月3,000円から200円(月1医療機関ごと)に。また、中学生の通院費用の自己負担額が月3,000円までとなる助成を新たに開始します。

子どもの医療費にかかる自己負担額と本制度の推移は図3のとおり。

(図3) 子育て支援医療費助成 自己負担額の推移 (年度末時点)

年度	区分	乳幼児		小学生	中学生
		入院	200円		
平成22年度	通院	200円	3,000円		
	入院	200円			-
平成23年度	通院	200円			
	入院	200円			3,000円
平成26年度	通院	200円			-
	入院	200円			200円
平成27年度	通院	200円			3,000円

「生きる力」を育む教育のまち

多様で変化の激しい社会の中で、本市においては、都会並みの質の高い教育を提供していきます。

本市の将来を担っていく子ども達が、ふるさと「舞鶴」に誇りを持ち、個々の個性や特性を伸ばし、夢の実現に向けて粘り強く努力することにより、心豊かで、社会に貢献する自立した人材となるよう、知・徳・体の調和の取れたいわゆる「生きる力」の確実な育成に取り組みます。

幼児教育の充実

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、遊びを通じて学びの中で、考える力や人とかわる力を育てることが大切です。

小中一貫教育を推進

学力の向上と学校生活への適応に向け、義務教育9年間を見通した一貫性のある学習指導と生徒指導、そして小・中学校の円滑な接続を目指した小中一貫教育を推進するため、教育課程の編成や年間指導計画の作成、小学校の教科担任制、小・

夢の実現をサポート

市では、子ども達の夢を育み、その夢の実現を支え、将来社会に貢献できる人材を育成するために、中学校では夢チャレンジサポート事業を実施しています。

学力診断テストの実施により、生徒が自分の学力を把握し、学習改善につながる取り組みを進めています。

また、生徒が将来の夢を考え、それに向かって努力することの意義を学ぶ夢講演会の実施(左下写真)、そして今年度から、個に応じたきめ細かな学習指導を行うための学習サポーターの配置など、学力向上に向けた支援を充実させていきます。



▲神戸大大学院人間発達環境学研究科准教授の北野幸子さんによる子育て講演会(昨年7月12日)



▲両丹私立幼稚園園児大会(昨年5月21日)



▲余内小出身でバレーボール女子日本代表選手の井上愛里沙さんの夢講演会(1月13日)